

図書館報 ぷらっつ★篠崎

077号



篠崎図書館館長が
感じたことなどを記します。

Facebookで友人の投稿を見て『思いがけず利他』という本を読みました。利他とは利己の対義語ですが、自分の利益を考えずに利他的にふるまうのは実は難しいことです。他人のためと思ってやることでも、それで自己満足を得たり、巡り巡って自分の利益になることを少しでも意識したりしたら、本当の意味で利他とは言えないと言います。支配欲や偽善といったものが見え隠れするからです。

「誰かのためになる瞬間は、いつも偶然に、未来からやって来る」と著者は言いま

す。利他のチャンスは思いがけず巡ってくるものだと思います。とはいえ、思いがけない瞬間は漫然と過ごしてやってくるものではありません。日々鍛錬を積み、感覚を研ぎ澄ませておかなければなりません。そして、思いがけず誰かのためになる瞬間が訪れたときには、迷いなく利他的にふるまえるような自分でいたいと思います。

参考資料

「思いがけず利他」中島 岳志著 ミシマ社
151+ 篠崎ほか所蔵

江戸川まいにんぐ 発掘 第77回 「エモい」再探索

私が幼い頃から、小岩の街にはレトロ感漂う店が多数あった。2022年に出版された『ラブユー小岩レトロ』で紹介されているお店もほとんど知っている。しかし長年存在を知っているだけで一度も入った事がない店舗も多かった。今まで頻りに立ち寄っていたのは使い勝手の良い大手のチェーン店ばかりだったが、今回本を読んでみて「いい機会だ」とようやく30年越しに訪れてみた場所がある。そして後悔した。「私はなぜこんな面白いお店を今まで素通りしていたのだ…!」と。

小岩駅周辺は大々的に都市開発がされており、私が幼い頃の風景ともだいぶ変わってきている。小岩駅と繋がる駅ビルの内部も、一昔前とは随分様変わりした。開発され小綺麗な街になることは良い事だと思っていたのだが、こうして昔からある面白いお店を体感してしまうと、それらが消えてしまうのは非常に寂しいことのように感じる。

江戸川区内のイベントやスポットについてスタッフが調査して身近な情報をお届けする地域密着型のコーナーです。

「面白いお店」というのはもちろん『ラブユー小岩レトロ』の中で紹介されている場所だけではない。そもそも小岩駅周辺には南口だけでも特色のある商店街が3つもあり、それぞれ個性豊かな様相を呈している。さらに商店街の大通りから一本通路を入れれば、また全く違った閑静な街並みが広がり、寂しさを誘うような不思議な空気が流れている。江戸川区は庶民的な、今でいう「エモい」場所がまだまだ残っている街だと思う。しかし、常日頃は気にしない「当たり前風景」は、気付いた時には無くなっているかもしれない。慣れ親しんできた場所が実際に消えた時に「ああ、行っておけばよかったなあ」と後悔しないよう、今のうちにそういった「エモい」場所を再探索してみたいだろうか。

参考資料

「ラブユー小岩レトロ」松岡 サラサ著 パレード
291.3+ 篠崎ほか所蔵

そのメロディに魅せられて♪

「モリコーネ 60」

エンニオ・モリコーネ F2モ10396 篠崎ほか所蔵

線路わきに物騒な雰囲気の中が集まっている。向かいに佇みハーモニカを吹いている一人の男。これから起こる波乱を連想させるようなメロディー。

映画「ウエスタン」劇中歌、エンニオ・モリコーネ作曲、「ハーモニカの男」(CD収録曲)です。

音楽家生活60周年を記念して発売されたこのCDにはマカロニ・ウエスタン・ブームの先駆けとなった三部作のほか、「愛のテーマ」(ニュー・シネマ・パラダイス)「死のテーマ」(アン

タッチャブル)などマエストロ・モリコーネの代表作が収められています。

映画音楽を作曲しても、作曲家としては認められなかった不遇の時代、一度は映画音楽をやめてしまったモリコーネでしたが、マエストロと呼ばれ後に沢山の賞を獲ります。映画のために作曲された音楽は、映画の魅力をより際立たせました。一昨年、惜しまれつつこの世を去った故人のご冥福をお祈り申し上げます。

スタッフのセレクション!

篠崎図書館スタッフが選んだ
おすすめ本を紹介します

「とあるひととき」

エッセイが好きだ。その作家の日常や素顔を感じることが出来るから。

今回紹介する『とあるひととき』は14人の人気作家が、「朝」、「夕暮れ」、「午後十一時」に感じたことや、その時間帯にまつわる思い出が綴られている。

例えば「朝」。保育園へ向かう道、自分の人差し指1本だけを握る娘の小さな手。やがて人差し指と中指2本を握れるようになり、薬指も入れて3本に増えていく。いよいよ普通に手をつなげると思ったら「もうパパとは手をつなげずに歩く!」と言われた時の寂しさと我が子の成長を感じる嬉しさ。

「夕暮れ」では、どんな夕暮れの空を見ても、亡くなった祖母を思い出し、二度と会えない人と空は深くつながっていることを思う。

三浦 しをんほか著 平凡社 914ト 篠崎ほか所蔵

「午後十一時」。夢中になった深夜のラジオ。昼間には使わない“ラジオネーム”で本音をしゃべる、朝までの夢の時間。

14通りの個性あふれる文章と、日常のひとコマが垣間見え、得をした気分になる。

読んでいてふと思った。仕事帰り、ビルの3階から見える、空一面を真っ赤に染める夕焼け。あ〜今日も一日が終わった。さあ、買い物をして家に帰ろうという「ひととき」が自分にとって、いちばんリラックスしてほっとできる時間なんだ。そんなささやかな日常の積み重ね、時を過ごしていくのが幸せなのかなあと。

あなたにとって、かけがえのない『とあるひととき』はいつですか?

編集後記

「どうする家康」に自分を重ねすぎて毎回泣いています。(風雲ふわふわ丸) / 3ヵ月連続で初めての場所を訪れています。この調子で目標達成するぞ〜(ぱるめりん) / 今号の特集は「天才」。天才になりたいのー。(たてじま) / やりたい事、やるべき事を習慣化させ、結果を出したい。(すずの木) / 冬場頑張ってしまったので、ゆっくり心身を休めたいです。(卯月)

編集・発行:江戸川区篠崎図書館
住所:〒133-0061
江戸川区篠崎町7-20-19
しのぎ文化プラザ内
TEL:03-3670-9102

[しのぎ文化プラザHP]内篠崎図書館ページ
<https://www.shinozaki-bunkaplaza.com/library/>

▼
ツイッター
やってます!



天才

天才とは僅かに我我と一步を隔てたもののことである。

芥川 龍之介『侏儒の言葉』より



天才を生んだ孤独な少年期

熊谷 高幸著
新曜社
141ク
篠崎ほか所蔵

ダ・ヴィンチからジョブズまで。本書で取り上げる6人は、人間の文化を変えたような「天才」たち。彼らにはいくつかの共通する特性があるという。「天才も同じ人間である。その同じ人間がある条件のもとで成長すると天才になる。」彼らがまいた種をどう育てるかが課題という終章も腑に落ちた。



天才たちの日課

メイソン・カーリー著
金原 瑞人ほか訳
フィルムアート社
702カ
篠崎ほか所蔵

常人とは違う感性で物事をとらえ、素晴らしい作品や功績を遺す神に祝福されし者。誰もが「天才」と認める人々は私たちと何が違うのか。何でもいいから知りたいと思ってしまった自分に戦慄している……。朝起きて寝るまでのルーティンなど彼らの暮らしぶりを紹介。「なんだ自分と同じか、それより酷いかも」とガッカリするのか、「さすがだね」と感嘆するかは、是非読んで確認してほしい。



バカボンのパパよりバカなパパ

赤塚 リエ子著
徳間書店
726ア
篠崎ほか所蔵

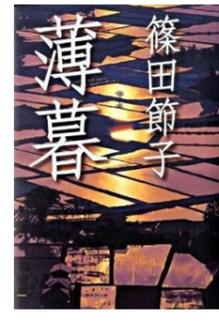
やがて天才バカボンを生む18歳の赤塚青年。上京してすぐに住んだのは、江戸川区小松川でした。何だか縁を感じます。「ウケるためなら死んでもいい」とムササビの真似をして木から飛び降りるかと思えば、「自分が偉いと思ってると、人は何も言ってくれない。自分が一番バカになればいいの。何でも言ってくれるよ」という謙虚さで愛されます。愛娘が見た赤塚不二夫の“ギャグ”人生の物語です。



猫の創造性

『跳躍者の時空』所収
フリッツ・ライバー著
中村 融ほか訳
河出書房新社
933ラ
篠崎ほか所蔵

IQ160(?)のスーパー猫ガミッチ。飼い主は彼が最近ボウルの水を全く飲んでくれないことが心配でならない。入れ物を変えたり、特別な風味を加えたりしても、ボウルをひっくり返し続けるのだ。一体なぜ? そしてどこで水分補給をしているのか? 天才ガミッチの2つの行動にギャップがありすぎて、軽くショックを受けました。



薄暮

篠田 節子著
日本経済新聞出版社
Fシ
篠崎ほか所蔵

地元で埋もれていた郷土画家の遺作が突如脚光を浴びる。編集者の橋は、この「閉じられた異才」を世に知らしめようと画集出版へと動き出す。画家を支え続けた妻の情念や、郷土の人々の欲と疑心など、真に迫る心理描写に目が離せない。夫婦のあり方も考えさせられ、読み応えのある重厚な作品。



アレックスと私

アイリーン・M. ペパーバーグ著
佐柳 信男訳
早川書房
B646へ
篠崎所蔵

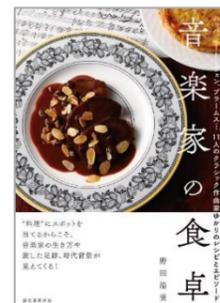
蔑んだ意味合いを含んだ「鳥頭」のイメージを反転させた天才インコのアレックス。十数年前まで、鳥類の能力では不可能と思われていた行動を次々にこなしてみせた功績はとても大きい。本当は臆病なのに身内に偉そうな態度をとる様子は、小さな男の子が家族に甘えているようで、どこか憎めない。



岡本 太郎

岡本 敏子著
アートン
723オ
篠崎ほか所蔵

「芸術は爆発だ!」テレビで見た「岡本太郎」に子供だった私は圧倒されるばかりでした。岡本太郎は、生まれながらに岡本太郎だったわけではない、自分の力で岡本太郎になったのです。生涯闘い続けた芸術家の養女で、秘書として50年間支えてきた岡本敏子さんによる伝記です。



音楽家の食卓

野田 浩資著
誠文堂新光社
762ノ
篠崎ほか所蔵

天才と呼ばれた音楽家たちが人生の中で口にしたであろう料理が、時代背景やエピソードと共に紹介されています。レシピも載っていますので、料理を作って食べてみるのはいかがでしょうか。巻末には音楽家たちが訪れた現存する欧州のレストランも紹介されています。



荒仏師運慶

梓澤 要著
新潮文庫
BFア
篠崎所蔵

東大寺南大門の金剛力士像で知られる天才仏師・運慶の物語。棟梁としての重圧や兄弟子・快慶との確執がありながらも、息子や弟子達を育成して、一門の慶派を当代一の仏師集団としました。運慶達が魂を込めた仏像を観に行きたくなりました。



上杉謙信

吉川 英治著
KADOKAWA
BFヨ
篠崎ほか所蔵

甲斐の虎・武田信玄と越後の龍・上杉謙信。北信濃の支配権を巡り、戦の天才二人が川中島で激突する。啄木鳥の戦法で別働隊による挟み撃ちを狙った信玄だったが、それを見破った謙信が武田軍本隊に突撃をかける。熾烈な白兵戦、大将同士の一騎打ち、はたして戦いの勝者は——。冷静さと情熱をあわせ持つ謙信は、私のあこがれです。